発行所
松代町公民館
館長　富沢清夫
東筑郡松代町
電話　松代　五番
印刷所
松代印刷所

臨時議会
社会教育関係條例制定等を審議

四月二十五日臨時議会が招集され議事十一件が審議された社会教育委員設置条例と社会教育委員の報酬及び費用弁償支給条例が文教、厚生常任委員会に付託されることになったほかは原案通り可決された。

◎議第一号　昭和三十五年度才入才出第一回追加予算
失業対策事業費が二八五六五一円追加された。

◎議第二号　松代町助役の任命同意について
現助役が再度任命された

◎議第三号　松代町收入役の任命同意について
現收入役が再度任命された

◎議第四号　松代町監査委員の任命について
田口熊一氏が再任命された

◎議第五号　松代町固定資産評価審査委員の任命同意について
田口広吉氏が再任命された

◎議第六号　松代町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定について
医療職員給料表が追加された

◎議第七号　松代町と新潟県との間の公平委員会の事務委託に関する規約の制定について

◎議第八号　松代町社会教育委員設置条例の制定について（文厚常任委員会付託）

◎議第九号　松代町社会教育委員の報酬及び費用弁償等の支給条例の制定について（文教常任委員会付託）

◎議第十号　松代町公民館設置条例の制定について

◎議第十一号　松代町教員住宅設置条例の制定について（清水と山平の教員住宅に適用する）

使用料、室代として一畳につき月額百円徴収することが出来る。

学区でPTAが賄婦を置くときは月額参千円以内の補助を支給することができる。

☆

常任委員決る

議会各常任委員が次の通りきまった。

◇総務常任委員（一六人）
委員長　秋山利作
委　員　鈴木初三、米持幸太郎、柳藤一郎、武田雄一郎、室岡久助

◇文教厚生常任委員（六人）
委員長　石沢昌美
委　員　高橋喜四郎、山本昇治、万羽弘、高橋義平、若井宗吉

◇経済常任委員（六人）
委員長　柳喜三次
委　員　石野勝以、市川軍平、横尾好和、富沢泳、小堺盛一

◇土木常任委員（六人）
委員長　小堺元一郎
委　員　樋口富之助、武田良平、佐藤勇吉、井上政治、佐藤兼作

分館長館支長は分館支館毎に一名、主事一名、専門委員三名、書記一名をおくことができ運営審議会委員は十五名以内で任期は二年で分館館部落支館を設置することができ、職員は館長一名、

施肥の考え方
＜農業講座・その2＞

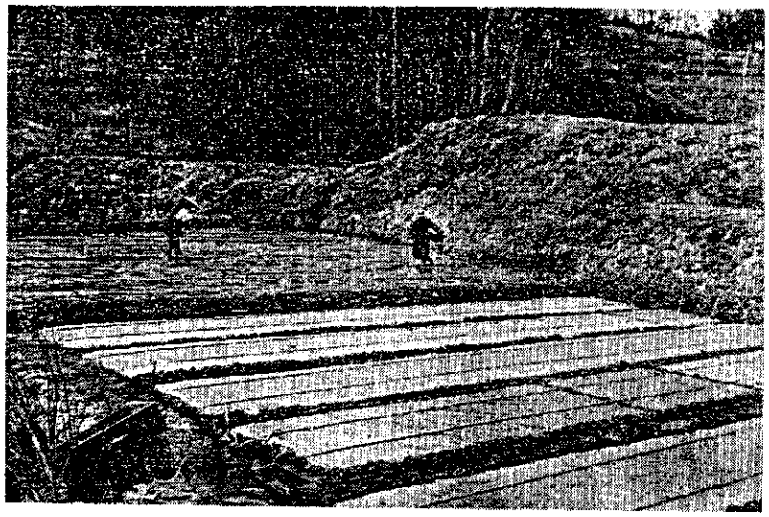
何時消えることかと心配を本田作業に傾け苗の逐合された雪も殆んど融けて早期には田植えが出来るようやら暮らしくなってきました。当地方全の準備を整えるべきである。

そこで本号では本田作業と不可分の関係にある施肥の考え方について申し述べることゝする。

云うまでもなく水田の施肥に稲の栄養となる養分をより約二与えるものであるが稲は肥ケ月も遅料を直接養分として吸収されて漸くるよりは土壌を通じて吸収この辺で利用するものでむしろ肥料も本田並は土壌養分の補給といって備にとりもよい位だから水田から如かゝる時何にして養分が供給される期となった。

前号でておかなければならない。は專ら早晩又土地が悪い場合稲の根が播きの必要を述べたが搭角早播きをれるので養分吸収の場であるがそれ肥料の栄養分を開いているが収量はもし又失敗もする。倒病害必ずしもこれと平衡しない。このことは自己の田圃に合った施肥量や施肥方法でなかったことを意味し用量は非常に異なり表層施増収上重要なことだがそのために生育中期に肥切れ時七～八割、穂肥時二～三割に施用すれば良いと思施す必要がある。

苗代つくり　（4月21日撮影）



稲の生育にもっとも影響するのが窒素肥料で窒素の量と施肥方法の如何で増収でなかった。

倒窒素施用量は同じでも植えに伴う施肥方法の改善やり方によって稲の吸収利用度に抑制されるし有効成分が不足するような砂地では肥料の施用量が足りない所もあるが、この辺は燐酸欠乏地帯でもあり三要素均衡の面からも又稲の生理的かの乾燥した風が吹いて気象的から客土の奨励をして来たが実績はあまり上っていない。しかし客土を多量にやった所は燐酸の肥効がおちるので分けつ数が多くなりすぎる条件下では分けつ発生が適度に抑制されるし有効歩合が低下して分けつ数が多くしている大きな原因となっています。「火の用心」を充分にすれば、火災の大部分を防ぐことができる。○電気器具は信用のあるメーカーのものを使い、一本のコードでは無理な使用をしないよう気をつけて下さい。

「県だより」より

5月10日からの愛鳥週間に備えて

今年も例年のように五月十日から愛鳥週間が始まります。これは一つ自然を愛護しようという考えからであるが、そればかりではなく生活に役立っていることは皆さんも知っていることゝ思います。ことに森林が害虫や害獣に食いあらされているのを防ぐのには野鳥は有益な働きをしております。このことについては野鳥の食するのを詳しく調べたり、森林の害虫害獣を食べている種類が断然多く全体の六割五分であり、動植物混食野鳥は二割あとの残りが植物を食べている程度であることが始めて明らかにされております。

有益鳥の保護はたゞちに森林保護につながる。これから益鳥と害鳥のわかれるところは先ず鳥類の生活が植物性食餌を採る鳥類は有害であるが、それに対しての指導者各小中学校の先生各位様の並々ならぬ努力のたまものと非常に感心して来ました。巣箱の形はどんな粗末な材料であっても良いのです。旧山平地区に於てはそうです。よく〳〵家の軒下にまで巣箱のあるのは珍しくない。このように一般の農林にたずさわる業者はこのように野鳥に対して認識を深めて野鳥といわず山は勿論家の軒下でもよいのです。数多く備えてやって下さい。

私は今年四月上旬旧山平部落におもむいた時実に驚きました。それは小鳥用の巣箱であります。幼い学童が山の木々各所至る所巣箱が目に入った。そこでさすが野鳥の本場だけあってか

春さきに多い火事
＝危険物の取扱いには細心の注意を＝

新潟県の過去十年間の平均をみると、一年中で四月が一番火災が多く、二位が五月、三位が三月という順げすてないで下さい。○えんとつは完全でしょうか、乾燥した風が吹いて気象的から客土の奨励をして来たが実績はあまり上っていない。しかし客土を多量にやった所は燐酸の肥効がおちるので分けつ数が多くしている大きな原因となっています。「火の用心」を充分にすれば、火災の大部分を防ぐことができる。○電気器具は信用のあるメーカーのものを使い、一本のコードでは無理な使用をしないよう気をつけて下さい。

（松代町愛鳥クラブ）

眼

関谷甲子夫

古い諺であるとか、又迷いう面は余り関心がもたれ信だとかいうようなものゝていないようである。ところ中にも今捨てがたいものゝ方が昔の医書によるとこがある。中には事実そのもの方が遙かに重要であるとこのズバリと表現し、成は今れている。最近特に問題に目の学問からみて、明らかされている高血圧の知きも に根拠のあるものは少なく私共が日常用いる所謂血圧ないようである。 計は勿論眼科専門医によるだ

要するに永い年月にわた眼底の所見即ち眼球の裏側が、って云い伝えられてきた、（内面）底に走っている血動き、そういう素朴な言葉の中に管の状態及び眼球の圧力を依はやはりそれにはそれだけ測ることにより、その高血の充分な根拠もあったので圧の程度性質、更にその治はないかと思われるのであ療の面までが決定される程

従ってすべて非科学的であるという事をみても肯であると一笑にふすこともけることゝ思う。出来ない。むしろそういう 力があり輝き潤んでいる考えこそ非学問的である。 眼光人を射るなどの形容もよく昔から目は心の窓で猥褻とか馬などはいずれも皮あるといわれ、屢々引用さ生れてくるわけであるが之れる言葉であるが、眼は身に反し病人の目は全くこの体健康のシンボルであると反対である。又美人の第一の方が動物に近いわけであ

「魚は瀬に住む、鳥木にになげかわいしことではなんど虫ばかり食べている。 をよく利用する。とまる、人は情の下においでしょうか。この幼虫時 「アカハラ」これも同じこ「クロツグメ」は木の実も古人の諺の如くすべて自代に全滅してくれるのは誰ろ南から渡ってきて高原の多少食べるが主として甲虫然に生れ自然に順和するのでしょう。それは可憐な野 居松林で繁殖しているコガ類、アブ、ハエ、ガの幼虫は動物界のならいではない 鳥であります。 蜂蝿を始め 等食べる。かと思います。 昆虫類の細菌媒介、常に尊 「アカモズ」本州には五月

私は何時も自然を楽しみ 昆虫やミミズを好んで食べ 上旬頃渡ってくる。各種甲自然に生きるつもりであり 人命までもおびやかされる。又小形の甲虫類各種の虫類、コオロギ、バッタ、

「ウグイス」一名春を告げ 人間の悲しさで透徹した 苦勉励されたものであるか 未だ参らず候はゝ御所持の 「万葉」拝借可被下候。下 度御返申候。下巻御借被下度 候。過し頃はたしたまい候。 日うち忘御礼申不上候。頓 首 十二月二十八日

尚みそ少々御換可被下候。

与板への書状は十日の日 つけに致し候間十日より天 気次第に人につかはされ可 被下候。 荷物少々のこし 置き候間、万葉を国上へ被 遣の節つかはし可被下候。 此間寒気に堪えがたく候 然れば「ちよう州録」一巻 御家に有之候はゝ遣度被下 候。以上 十月二十九日

条件は眼である。澄んだ瞳黒い瞳、緑の瞳の様に勿論孔、瞳にもその美しさは 瞳の形こそ人の生命とも云 では何にもならず矢張り眼 あるでしょうが、眼瞼が変 瞼にもその美しさはしからず。

面白い事は或る医学者の 脂肪に富みふくらんで一重 脂肪が多いが、西洋人は 脂肪が少く凹んで二重瞼が ないかと考えられる。年を 計は勿論眼科専門医による 形で単調な感じを与えると って云い伝えられてきた、 （内面）底に走っている血動き、又その振幅が大きくなる。この上まぶたのたるみは老人現象であるが、之 はやはりそれにはそれだけ測ることにより、その高血の充分な根拠もあったので圧の程度性質、更にその治はないかと思われるのであ療の面までが決定される程

従ってすべて非科学的であるという事をみても肯であると一笑にふすこともけることゝ思う。出来ない。むしろそういう 力があり輝き潤んでいる考えこそ非学問的である。 眼光人を射るなどの形容もよく昔から目は心の窓で猥褻とか馬などはいずれも皮あるといわれ、屢々引用さ生れてくるわけであるが之れる言葉であるが、眼は身に反し病人の目は全くこの体健康のシンボルであると反対である。又美人の第一の方が動物に近いわけであ

野鳥愛護と植林

松代町愛鳥クラブ

の発端は先ず第一に野鳥の と森林の乱伐を防ぎ、 農作物の害虫撲滅に寄与力 をそゝぐべく立ったのです。河川の魚は乱獲され、 山の木は毎年年と共に一本 一本みだりに切り倒され、 野鳥の住む木はだん／＼減 って行く。この状態を見て 何の自然の美、即ち天然の 楽があるでしょうか。山野 に木が繁ってこそ野鳥が繁 殖し、人々の目がとゝかなるのです、次に山をまもる野 い害虫が数知れぬ程自然の 鳥の仲を二三の例をあげて うちに殺されていくのです みよう。 この害虫の為全国数所の 大松林が一夜にして消えた 類、あゝ、はえの幼虫や成 という話を昔さんは御存じ 虫等を食べる。 の事と思います。又夏が近 一サンコウチョウ」は四月 ずくにつれ蚊蝿の発生これ 下旬頃南から渡ってくる。 らに無夜せめられるなど実あゝ はえ、あぶら虫等ほとに

其の名の如く野鳥は勿論一虫も食べる）

「ウグイス」一名春を告げ 「ムクドリ」は留鳥であり 園、部落附近にいる。動植 物質ともに食べる。青雛期 には主に昆虫を食べる。 箱 飛びまわり小さい色々な虫 を食べる。 「シジュウガラ」は一日平 均三三〇匹の虫を食べる。 「ムクドリ」は一日平均五 七〇匹の昆虫を食べるといわれている。 日本に棲む野虫は現在五 人目のつきやすい耕地、庭 二〇種位ありこれらの中五 九〇%は動物質を食し三割八 分は動植物を混食し植物の み食べるのは僅か二%に過 ぎないことが明らかにされ ております。 松喰虫を始め松の木ハバ チや「マイマイガ」松毛虫 等の大発生を見てその被害 面積は（本県）既に一万五千 町歩に及んでいる。この数 多くの例で明らかに証明さ れているとおり野鳥が私達 生活上に大きな仇きをして いるということを充分認識 して可憐な優秀な 下さいまして 森林巡視者である小鳥を可 愛がって行きましょう。

次に日本最大の保護鳥に ついて述べてみる。 本県においても佐渡、能登 にいる「トキ」其の数も減 少し遺憾にたえない。 「コウノトリ」は日本には 共産県にわずか二十数羽が いるだけで特別天然記念物 候。此頃は少々ちくつろ 候。「王義之法報」二巻 御返申候。下巻御借被下度 候。過し頃はたしたまい 候。 日うち忘御礼申不上候。十八 日 十二月二十八日

尚みそ少々御換可被下候。

与板への書状は十日の日 つけに致し候間十日より天 気次第に人につかはされ可 被下候。 荷物少々のこし 置き候間、万葉を国上へ被 遣の節つかはし可被下候。 此間寒気に堪えがたく候 然れば「ちよう州録」一巻 御家に有之候はゝ遣度被下 候。以上 十月二十九日

閑居迷談

「良寛さま」の勉強

渋海老人

山の中に籠って良寛さまの境地になれた事を唯天 の様な明け暮を過しては居 然そのものと思って血のに 勉強の出来ないのが恥かし 知る人は少ない。 人間良寛のうちの勝れた 「参り候や、此者にあつら ひつかはさる可く候。もし 未だ参らず候はゝ御所持の 「万葉」拝借可被下候。下 巻御借被下度 候。過し頃はたしたまい 候。 日うち忘御礼申不上候。十八 日 十二月二十八日

尚みそ少々御換可被下候。

円通寺の国仙禅師を慕つ てこの僧が越後へ来遊のみ へも早速入道はし可被下候 行ったのだったが没くなら れてから四国へも足をのば あたり四国方面へも足をの ばした。そうして孤独の生 活世の悩みの一切から超越 する修業に身を打ち込んで いたのである。 江戸の人万丈がその見聞 を綴った「寝覚めの友」の 中に良寛の事が載っている

◇……◇

それによると万丈が若い 時土佐の国へ行ったら城下 から三里ばかりのところで 大雨にあってとまるところ もなし、道から二丁ばかり

あの気品の高い草書や万 葉の香り高い歌が、国上の 五合庵並に巳子神社裏に下 られてからも刻苦勉励の結 果の珠玉であることに頭が さがる。

◇……◇

良寛さまの円通寺から五 合庵へ帰られる迄の二十年 はくわしいことは知る由も ない。十八才で出家され三 十七八才の頃国上山へ帰ら れたのであるがその詩を一 つ紹介しておこう。

○

円通寺に来ってより 幾度か冬春を経る 衣あかづけばいさゝか自ら すゝぎ食尽きれば城えつに 出づ 門前千家の邸更に一人を知 らず 有て高僧伝を読む 恒伽に清貧を可しとす

◇……◇

円通寺の国仙禅師を慕つ てこの僧が越後へ来遊のみ へも早速入道はし可被下候 ぎり備中の玉島までついて 行ったのだったが没くなら れてから四国へも足をのば した。そうして孤独の生 活世の悩みの一切から超越 する修業に身を打ち込んで いたのである。 江戸の人万丈がその見聞 を綴った「寝覚めの友」の 中に良寛の事が載っている

◇……◇

それによると万丈が若い 時土佐の国へ行ったら城下 から三里ばかりのところで 大雨にあってとまるところ もなし、道から二丁ばかり の山の麓にこわれた庵室があったから乞うてとめて貰った。

そこには色青く面やせた僧がひとり炉を囲んでいたが食ふべきものもなく、風ふせぐべきふすまもない。二人が炉を囲んでいたがこの寒夜にこの僧の作と覚しく右詩を草書で書いてあった。が、それに越州の産良寛書ます、と書いてある。 雨は一日中やまず又一夜を乞ふた。矢張り食べ物は麦粉だった。

三日目に出立する時餞少々御礼にやったがそんなものには用事はないといってうけつけぬ。不本意ながら短冊と紙をやったら大変喜んだ。

これは二十年前のことだ。これがいまの有名な良寛であった。としるしてある。それによると 弘化二年巳のとしの初夏 椿園のあるじ万丈 七十才書す

◇……◇

良寛と親交のあった原田教斉氏の後えい原田鵬平君は私の友人で久しぶりにこの程新潟で逢ったので迷談としてこれからはじめる。

（四、二六）

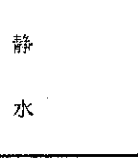
インテリ階級では阿部定珍老の外、歌学者大村光枝、江戸の儒者亀田鵬斉（医者で文人）解良叔問、木村元右衛門、山田杜樹、三輪磯右衛門、鈴木経道及碑造、貞信 尼その他国上山を中心とする知識層との交遊を歌に書 簡に数多く見る。 手紙の一片からどんなに勉 強されていたものかをべっ見することにする。

◇……◇

此度は御厩遣に打過候 ば早速入道はし可被下候 へも早速入道はし可被下候 ぎり備中の玉島までついて 行ったのだったが没くなら れてから四国へも足をのば した。そうして孤独の生 活世の悩みの一切から超越 する修業に身を打ち込んで いたのである。 江戸の人万丈がその見聞 を綴った「寝覚めの友」の 中に良寛の事が載っている

◇……◇

それによると万丈が若い 時土佐の国へ行ったら城下 から三里ばかりのところで 大雨にあってとまるところ もなし、道から二丁ばかり



滝沢 柳静水

○遠近に木を割る音や花散り
○遠山の雪まだ白し田打人
○芋焼の恐ろしくなり消し廻る
○春暁の窓辺に鳥の来て鳴けり

千年 柳茶水